

常務理事会から

「認定心理士の会」がスタートします

学術担当常務理事として、今、いちばん力を入れている仕事は、認定心理士への新しいサービスのスタートです。この仕事は、認定担当常務理事と協力して進めています。認定心理士へのサービスは従来、日本認定心理士会（現日本心理職協会）と協力して提供していました。しかし、様々な問題が生じ、ここ数年は日本認定心理士会との協力関係を中断していました。認定心理士認定業務は日本心理学会にとって重要な業務で、これまで約48,000人以上の方々から認定心理士の資格を取得しています。最近では、毎年、3,000人強の方々から取得しています。2015年度も、3,200人の新しい認定心理士が誕生します。こうした、多くの認定心理士の方々に、学会としてのサービス、主として研修の機会の提供などのサービスを、直接、提供していく方策の検討を進めてきましたが、この度、実施の運びとなり2016年4月から、日本心理学会の内部の組織として「認定心理士の会」をスタートさせます。

この会は、認定心理士の資格を持っている方ならどなたでも入会できます。日本心理学会の会員である必要はありませんし、当面、「認定心理士の会」としての会費は無料です。申し込みの方法は、近日中にご案内を差し上げますが、基本的に会員になりたいという意思表示、入会登録をして頂ければ会員になれます。認定心理士の方々が自動的に会員になる訳ではありません。会則等も、1月の常務理事会で承認され、検討から実施の段階へ進みます。

具体的な活動としては、まず、新年度の早い時期に、キックオフイベントとして、「認定心理士の会」独自の講演会を東京で開催し、また、秋頃には関西地区でもワークショップを開催する予定です。認定心理士の方々、特に大学や研究機関に属していない認定心理士の方々から、心理学の勉強を進めたい、最新の知識を得たいという要望はもちろんですが、その上で、他の認定心理士の方々と横の繋がりを持ちたいという要望が多く寄せられています。また、小規模なワークショップや勉強会のようなものをやりたいというご要望も多くなっています。しかし、日本心理学会に、そうした要望に

即応するための組織的な準備、特に各地域の組織は整っているとは言えません。まずは、横の繋がりを持って頂こうということで、上記、ふたつのイベントや、全国で開催される公開シンポジウムの終了後に、認定心理士の懇親の場を設け、各地の認定心理士の方々に横の繋がりを持つ機会を提供していく予定です。こうした場で生まれる横の繋がりを軸に、新たな活動が芽生えればという気持ちです。さらに、ニュースレターを刊行する予定です。まず、準備号（ゼロ号）を2015年度内に発行し、その後、2016年度に発足記念第1号を発行する予定です。このニュースレターは紙媒体ではなく、電子媒体でお届けします。常務理事会は、こうした認定心理士向けサービスを充実したものにしていきたいと考えています。ご意見を学会宛、どしどしお寄せください。

学術担当常務理事のメインの仕事は、教育研究委員会（箱田裕司委員長）のもとにある、4つの小委員会で行っている、心理学叢書の刊行、公開シンポジウム・講演会の実施（講演・出版等企画小委員会）、各種調査（調査小委員会）、歴史的資料保存およびオーラルヒストリー（資料保存小委員会）、心理学ミュージアム（博物館小委員会）等、一般向けのサービスのほとんどと言っても過言ではないかもしれません。このうち、講演・出版等企画小委員会では、講演会・シンポジウムや、出版物の刊行を担当し、2015年度は、公開シンポジウムとして、「社会のための心理学シリーズ」、「科学としての心理学シリーズ」の二つのシリーズで計7テーマ、それぞれ2カ所、総計14回実施しました。その他に、「高校生のための心理学講座」も14回実施しました。2016年度も、ほぼ同様の規模で実施する予定です。出版業務としては、心理学叢書の刊行を行っています。心理学叢書は公開シンポジウムの内容を図書として刊行しているもので、2014年以来、4冊刊行されています。2016年2月には、はじめて、高校生のための心理学講座から生まれた1冊、「高校生のための心理学講座——こころの不思議を解き明かそう」が刊行されました。ご一読ください。

（学術担当常務理事・立命館大学教授 佐藤隆夫）